

# 農業掲示板 4月



## く り

### 害虫対策・凍害後の処理



・樹齢2～5年の幼木は暖冬の年に凍害の被害を受けやすくなります。凍害は4月中旬以降になって初めてわかり、不発芽(発芽しない)、発芽遅延(発芽が遅れる)、発芽不揃いなどの症状が見られます。春先の発芽状況に十分注意してください。また、樹肌が皸肌状にザラザラになり、削ると褐変して甘い発酵臭がするのが特徴です。

・凍害を受けた樹は、樹幹害虫(キクイムシ類)の二次的な食入害を受けやすく、被害程度が大きい場合は枯れてしまいます。また病気では胴枯れ病にかかりやすくなります。太い枝を剪定したり、カットバック(更新剪定)したりした場合にも、切り口付近から発生する新梢の基部に樹幹害虫(コウモリガなど)が食入しやすくなります。

・**凍害後の処理**

・凍害にあった場合は、早めに枯死枝を切除することで、全体の枯れ込みを抑える効果があります。切り口に茶色い部分があるところまで凍害のダメージを受けていますので、その部分より下まで切り戻します。

・**害虫対策**

・幹に木くずを綴っている樹幹害虫(カミキリムシ類、キクイムシ類、コウモリガなど)は春先から防除をしましょう。(下表参照)木くずが出ている部分の樹皮を削りとり、幼虫が見つければ捕殺します。

・近年、クスサンの幼虫(大きな毛虫)が発生し、葉を食害されている樹が目につきます。クスサンの幼虫は、ふ化した頃(若令)は黒色で、葉に群生しているため、葉のまま紙袋に入れて処分するなどして捕殺します。

・コウモリガの幼虫は、ふ化直後は雑草に寄生しているため、幹に食入するのを予防するため、株元の雑草などは除去し常にきれいにしておきます。

**【参考】**



コウモリガの巣



クスサンの若令幼虫



シロスジカミキリ産卵痕



切り戻し前



切り戻し後

凍害による枯死枝の切り戻し

散布時期	使用薬剤名	毒性	対象病害虫	希釈倍数(10a)	使用時期	使用回数	備考
3～5月	ガットサイトS	普	キクイムシ類	1.5倍	産卵初期	1回	樹幹の地際部から約1.5mの高さまで散布または塗布。
			コウモリガ	1～1.5倍(塗布)/2倍(散布)	裂果前まで(但し収穫90日前まで)		樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまで主幹及び主枝に散布または塗布。

## 水 稲

### 苗づくり後の水管理

**【育苗】**

苗づくりは、水稲栽培において重要な作業です。田植え後の苗をスムーズに活着させ、初期生育を確保するためにも健苗づくりに努めてください。

- 健苗とは**
- ①茎がずんぐり丸く、基部が充実している。
  - ②育苗箱全体の苗丈や太さが揃い、下葉が枯れていない。
  - ③葉身の幅が広く、葉が硬い。葉色が濃すぎたり薄すぎたりしない。
  - ④病害虫の被害を受けていない。根が白くつやがある。

**【播種時期】**

良質米生産に向け極端な早植えを避け、適期田植えを行うようにしましょう。田植え時期が決まれば次に播種日を決めましょう。播種は、稚苗育苗の場合、田植え予定日の20日～25日前が標準となります。田植え時には苗の葉令が3.0～3.5葉、苗丈10～15cmとなっているようにしましょう。

**【苗箱1枚あたりの種籾量】**

一般的な稚苗育苗の場合、播種量は催芽モミで1.2合(150g)程度とします。厚播きにすると軟弱徒長苗になりやすくなるため注意しましょう。

**【育苗期間の温度管理】**

下表を目安に温度管理を行いましょう。

期間	出芽期間	緑化期間	硬化期間
	2～3日間	2～3日間	10～15日間
昼間	30～32℃	22～25℃	18～20℃
夜間	30～32℃	15～18℃	12～15℃

**【水管理】**

○出芽期の水のやりすぎは根張りが悪くなるだけでなく、病害の発生原因となるため注意しましょう。灌水は控えめとし、土の表面が乾けば灌水するように心がけましょう。

○緑化期の灌水の目安は、夕方や早朝、葉先に水玉がついていれば灌水の必要はありません。夕方に水玉がついていない場合は翌朝に灌水しましょう。

○硬化期以降は、晴天日の朝に灌水し夕方には土が乾く程度にします。夕方の灌水は夜間に水分が多い状態になり根張りが悪くなるため注意しましょう。

# 農業掲示板 4月の農作業

## 山の芋 植え付け

**・植え付け**

植え付け適期は4月上中旬、桜の開花時期で、平均気温が13～14℃の頃です。種芋の切断後、できるだけ早く行います。早すぎる植え付けは、地温が低いため萌芽する前に種芋が腐敗し欠株になることがあります。

植え付けは、手で簡単に穴が掘れる位の水分状態で行い、株間30cmの2条植えにします。10a当り4,500～4,600株を植え付けることになります。

コガネムシ類対策としてアトマイヤー1粒剤(4kg/10a)を植溝に土壌混和します。(ダイアジノンSLゾルを使用した場合は不要)

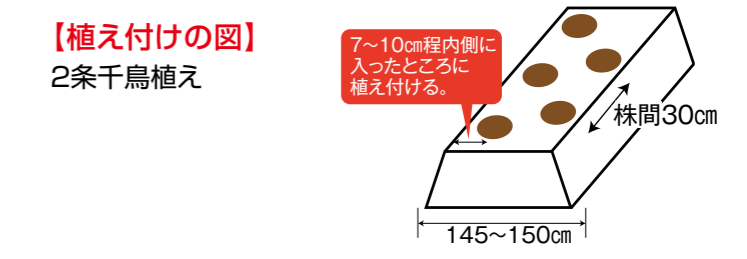
植穴は畝の肩より7～10cm内側に7cm位の深さに掘り、芋の形を良くするために植穴周辺の土はできるだけ細かく砕いて膨軟にしておきます。

切断面を上にして種芋のつる首が付いた方を同じ向きにそろえ、表皮部が土とよく密着するよう軽く押さえてから、3～4cm程

度覆土します。排水がよく乾きやすい圃場はやや深植えにします。覆土が厚すぎると萌芽がそろわなかったり、種芋が腐敗することがあるため注意しましょう。

乾燥防止と植え付け場所の目印として、覆土後その上へモミ殻やくん炭などを一握りずつ置きます。

萌芽まで適切な水分を保つため、必要であれば灌水します。



## うすいえんどう 誘引・わき芽取り・追肥

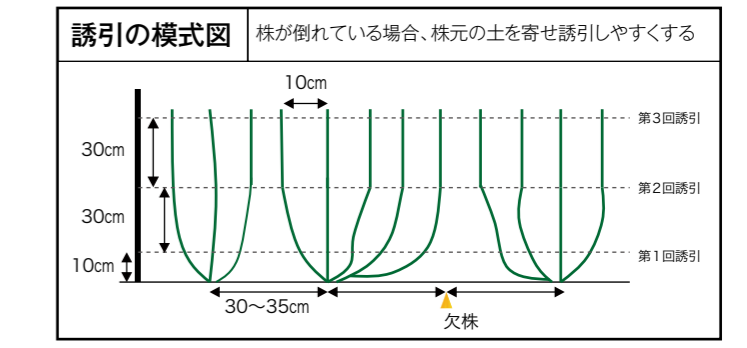
**・誘引**

・7～10cm間隔に1本のつるが上がるようにつるを誘引します。

・誘引作業が遅れると株が大きくなり、倒れて作業がやりにくくなるので、早めに行いましょう。株が倒れている場合は、軽く土を寄せてネットに誘引しやすくします。

・仕立てた3本の枝が重なりあわないように、10cm程度の間隔にテープナーテープなどでネットに誘引します。誘引が難しい場合は、バインダーひも等でネットの両側から挟み込みます。

・生育に合わせて20～30cmごとに誘引していきます。



**・わき芽取り**

・生育が進むとわき芽がたくさん出てきて樹が混み合い、通気性が悪くなります。また、わき芽を残しておくと莢への養分供給が少なくなり、莢太りが悪くなります。大きな莢を付けるためにわき芽は早い時期(3cm以内)に摘み取ります。但し、遅霜による凍害を受けた場合は株元から出るためのわき芽を伸ばし利用します。



**◎追 肥**

・3月下旬に垂りん酸粒状1号(3g/1株)を施肥(株元)

・4月上旬に畝の肩に施肥(株元から離す)

やさいばたけ(10:10:10) 40kg/10a

PK化成40号(0:20:20) 20kg/10a

**◎病害虫防除**

防除時期	薬剤名	病害虫名	使用倍率	使用時期	使用回数
3月下旬	トリフミン水和剤	うどんこ病	3,000倍	収穫前日まで	5回以内
	マラソン乳剤	ハモグリバエ類	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
4月中旬	サンヨール	うどんこ病 灰色かび病	500倍	収穫前日まで	4回以内
	アディオソ乳剤	ハモグリバエ類	3,000倍	収穫14日前まで	3回以内

**今後の 24時間OK /**

**農業技術テレホンサービス 電話:079-556-3384**

3月12日 ▶ 3月25日	3月26日 ▶ 4月8日	4月9日 ▶ 4月22日
山の芋の種芋の準備・消毒と植え付け	水稲育苗のポイント	水稲除草剤の上手な使い方

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00～12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)